



令和元年5月4日

# 補習校だより

No.2 文責 澤邊正人

## 褒めて育てますが、叱るときは叱ります

保護者のみなさまは、次の三つのうち、どれに近い考え方をお持ちでしょうか。

- 人間は善を行うべき道徳性を持って生まれてくる。だから、良い心が悪くならないように良い行いをほめてどんどんするようにさせ、悪いことはしないようにきちんとしつけるべきだ。  
〔性善説：孟子〕
- 人間は利己的欲望を持って生まれてくる。だから悪い行いをやめさせるために、良い行いを示して、悪い心がだんだんと良い心になるように教えなければならない。  
〔性悪説：荀子〕
- 人間は白い紙のように善悪の区別のない状態で生まれてくる。生活や社会体制などの後天的な理由で悪になったりする。だから良いことと悪いことの区別がつくように教え、良いことは進んでするようにさせ、悪いことはやらないように教え諭していかなければならない。  
〔白紙説：ロック〕

これらの考え方に共通していることは、「良いことと悪いことをきちんと教えること。良いことをしたらほめ、悪いことをしたらそれは悪いことと教え、しないようにさせる」ことです。

そのためには、私たち大人が事実をしっかりと見つめ、判断し、愛情を持って毅然と、「自分のすべきことを怠けること」や「友だちの邪魔をすること」「嫌なことや迷惑になること」は『やめる』ようにすることをきちんと教え込む必要があると思います。

その子の将来にとって、また、子どもの集団や社会にとっても好ましくないと明らかに判断できることは、補習校でも繰り返し指導していきたいと思います。

補習校は週に一度しかありませんが、補習校では日本的な教育の大切にしている部分を実践していきたいと考えています。日本語(国語)力の伸長を図ることはもちろんですが、それ以外にも、授業中の約束、集団生活におけるきまり、遊び時間のルール、クラスの友だちとの関係づくりなど、勉強以外で身につけてほしい大切なことも、子どもの発達段階に合わせてしっかりと指導していきたいと思っています。そのことは、誰もが補習校の学校生活において楽しく過ごせるために必要なことだからです。

子どもは基本的に、「褒めて育てる」のが子どもの自尊感情を育み、子ども自身に大切にされているという思いが醸成できると言われています。しかし、いつもどんな場合でも同じ方法では、子どもにとって好ましくありません。それどころか、自分本位な考え方を育てることにつながってしまいます。

だから、補習校では、叱るべきときには叱ります。

ご家庭でも、お子さまの生活に即して、時に話し合い、時にしつけていただくようご協力をよろしくお願いいたします。

